

ダムが必要か、みんなで考えよう！

WE LOVE
KOUBARU!

石木ダム問題を 考える平島・宿地区 学習会を開きます！



「長崎県が採用した降雨パターンは700年から800年に一度の確率の大雨という破棄すべき架空のパターン。川棚川下流の洪水の本当の原因は内水氾濫と支流の氾濫。ダムではなく排水ポンプを設置して水を排出すべき」「専門家である長崎県がダムが必要だと言うので推進してきた」「ダム反対の町民が一人だけでも、議員はその声を議会に届けるべき。議員は町民の声を聞きに自ら町民のもとに出向くべき」。町議や元県議も交え、治水論議だけでなく町政・町議会のあり方まで議論がヒートアップした2月25日の学習会。前回同様50名超の参加者で、川棚型民主主義とも言うべき熱い討論が行われました。今度は平島・宿地区の方が対象です。ダム問題や議会・行政に対する意見などを出し合っ、話し合しましょう。ダムに賛成の人も反対の人もご参加ください！

石木ダム問題を考える平島・宿地区学習会

日時：2017年3月25日（土）18:30 開始

場所：川棚町中央公民館 講習室

(川棚町中組郷 1506、TEL:0956-82-2064)

入場無料

内容： ①石木ダム事業の概要と問題点
②佐世保市の水は不足しているのか
③ダムが出来たらどうなるのか—熊本の事例から
④みんなで語ろう話そう—石木ダム問題

主催：石木ダム建設に反対する川棚町民の会

連絡・問合せ先：090-4519-2528 炭谷

*この学習会は平島・宿地区学習会としていますが、石木ダム問題に関心がある人なら、どなたでも参加できます。また内容は前月とは変わります。

石木ダムの問題点

石木ダム事業は以下の問題点を抱えています。ダムを造る必要はありません。

1. ダムを造る理由は失われている！

① 利水面：佐世保市の水は足りている

石木ダムの目的の一つは佐世保市への水の供給ですが、誤った水需要予測に基づいています。近年の佐世保市の水需要は減少の一途を辿っており、ダムの水を必要とはしていません。

② 治水面：石木ダムは川棚川の治水対策として不要

もう一つの目的である川棚川での洪水防止ですが、河川改修が進んだことにより、城山公園下の改修が済めば過去最大の洪水が来ても溢れずに流せます。これは中村法道長崎県知事も認めています（2014年7月11日、川原公民館）。下流の内水氾濫はダムでも防ぐことは出来ません。

2. ダムを造るとどうなるのか

① かえって洪水の危険が増す

想定以上の大雨でダム湖の水が満水状態になると、洪水調節が出来なくなり、ダムは緊急放流します。そのためダムの下流では大雨による水とダム放流の水が一気に押し寄せ、水位が一気に上昇し洪水が発生します。ダムを造ると下流はかえって危険です。

② 豊かな自然環境・地域社会が失われる

ホテル祭りで有名な川原地区の豊かな自然環境とその自然と結びついた13世帯の人々の生活もダム建設によって水没し、失われてしまいます。この失われるものの価値はお金に換えることは出来ません。



③ 川棚川・大村湾への悪影響

川の水がダムによってせき止められることで様々な悪影響が発生します。ダム湖ではヘドロや異臭が発生します。またアオコの発生も予想されます。ダム湖の水が下流に流れて、川棚川・大村湾の水質は悪化します。また土砂や栄養分の供給もストップし、漁業への悪影響も考えられます。

④ 土砂が溜まってダムは使えなくなる

ダム湖に流入・堆積する土砂により、ダムはいずれ、その機能を果たさなくなります。

⑤ 総事業費 285 億円で足りるのか

石木ダム事業の現在の総事業費は 285 億円。熊本県で中止になった川辺川ダムの事業費は当初 350 億円でしたが、最終的には 2650 億円になりました。石木ダム事業も今後、資材費の高騰などで建設費は大幅に増えることが予想されます。

⑥ ダムは人権侵害、民主主義と逆行する

そのような目的が失われ、問題だらけの石木ダム建設を、地域住民への十分な説明や水没予定地・川原地区の住民の合意なしに、13世帯約60名の家や田畑を強制収用までして長崎県は進めようとしています。これは人権侵害以外の何物でもなく、民主主義に逆行するものです。

今からでも遅くはありません。私たちが本気になればダムを止められます。

2016年11月 石木ダム問題を考える川棚町民の会